

議会広報のあり方について

議会報告会

- ・ 特別委員会から議会報告会をやるべきだと言っているが、現在は行なわれていない。
- ・ 例えば、栗山町では「情報の創造」という位置づけで、行なっている。
- ・ 町内会に出向いて行なうことなども検討している。

議会日程の掲示について

- ・ 役場内玄関付近にある「本日の行事」に議会の開催日程について書かれている。

傍聴者への対応について

- ・ 傍聴者には、資料が提供されている。

議会報告会を開催した場合について

- ・ もちろん行なってほしい。しかし、町民は来るのか？
- ・ 行かなくても後で分かる方法はあるのか？
- ・ 例えば、DVD化？リアリティがある方が良い。でも本当に借りてくれるのか？
- ・ 町民を引きつけるために、議会報告会までの盛り上げ方が問題である。
- ・ 気楽に行けるような仕掛けが大切。
- ・ 行って楽しい、親しみやすくする必要がある。

では、議員が個々に行なっている報告会は？

- ・ 個々に行なっているものは、議員個人のためである。議会報告会は、議会全体のための報告会である。

盛り上げ方について

- ・ 研究会が、町民が、盛り上がってほしいが。
- ・ むずかしい。町内会の役員を通じてでは、従来と変わらない。
- ・ 報告会で逆に質問をさせる可能性もある。そうすることでもっとエキサイティングな議会になると思う。

ポスターなどの掲示について

- ・ 議会の予告などを、栗山では議員が自らコンビニへ張り出しに行っている。

広報のあり方全般について

- ・ 今後は、コミュニティFMでのPRも考えられるのではないかな。
- ・ まち工房・元気！のボランティア活動などが期待できるのではないかな。パートナーシップで、議会がどう進むのかに掛かっているのではないかな。
- ・ 報告会の趣旨、そもそも報告会を開催する意味などが理解できれば、人が集まる集まらないの問題ではないのでは？まず、やること。必要性があるのであれば、やるのが大事。次にやってみてから、問題点を出し、考えることが大事。
- ・ 報告会を行なう場合には、ただの報告会ではなく、問題提起を携えていくことが必要ではないか。そうしないと、参加した町民が楽しくない。
- ・ インターネットは、若い人用の広報媒体である。やはり情報誌など紙媒体の広報が、大切。
- ・ 議会だよりの最後の一文に、「議会に対するご意見を受け付けている」と書いてくれると嬉しい。

議会広報特別委員長は「議会だよりに」についてのみの責任である。表現が難しいが、言っていることは分かるので、反映させるように心がけたい。

- ・ どの議員になど全く関係なく、広く議会へ要望があるときには、どうすれば良いの？要望書、請願書を書けば良い。
その方法が分からない。そこまで行き着かない。そうすると良いのですよと教えてほしい。何かに書いてほしい。

今日の意見交換会を通じて

- ・ 議会や議員さんたちは、町民の意見を聞きたいということが分かった。研究会は、パートナーシップのインフラ整備を考えている会である。町民が自主的につくる「まちづくりの拠点」が必要だという話し合いになっている。この拠点があれば、議会や議員とのパートナーシップが展開できると考えられる。どう思うか？
- ・ 大変必要なものだと思うが、継続的に経費をまかなえるような事業が必要だと思う。財源が必要。
- ・ 今から15年前くらいに「ふれあいネットワーク」という会があった。あのようなイメージだろうか？
- ・ 議会や議員の職務は、今まで以上に専門的になっている。片手間ではダメな時代だ。報酬、人数、など適切なのか？十分に検討してほしいと思う。
- ・ 予算の仕組みや補助金の制度など次々と変化する政策を、個人的な意見で良いので、どう捉えているか聞かせてほしい。
- ・ ボランティアでやることではないと考えている。現在の報酬は、それだけでは食べていけない。
- ・ 女性議員が現在一人しかいない。少ないと思う。子育てしている女性が、ヘルパーの方に頼んで議員の仕事が出来るくらいの報酬が必要で、そうでなければ女性議員は増えない。
- ・ 年齢層、男女比率は広範囲であることが、議論を深めるためにも必要だ。